

## 河合町

～快適な都市機能と豊かな自然環境を兼ね備えた悠久の歴史が息づくまち～

奈良盆地の西部に位置する河合町は、1960年代から大阪都市圏のベッドタウンとして西大和ニュータウンが開発され、商業施設等の生活機能が集積することで、魅力ある住宅地を形成しています。

町の歴史は古く、約60基の古墳のほか、国指定史跡や県指定文化財など貴重な歴史遺産や県内有数の規模を誇る馬見丘陵公園などの観光資源があり、周辺自治体とも連携して、移住促進や観光振興等に取り組んでいます。

### I 概要

#### 1. 地理と歴史

河合町は奈良盆地の西部、なだらかに起伏する馬見丘陵の北東部に位置し、同じ北葛城郡の王寺町・上牧町・広陵町、生駒郡斑鳩町・安堵町、磯城郡三宅町・川西町と接する人口16,393人、世帯数6,881世帯〔2024年2月1日付 市町村別推計人口・世帯数(奈良県)〕、面積8.23km<sup>2</sup>の町である。

飛鳥川・佐保川・富雄川など多くの川が町内を流れる大和川に合流する地にあることが、町の名

#### 河合町の位置図



前の由来である。町内に近鉄田原本線の3つの駅があり、大阪、奈良市内まで約30分で結ばれ、通勤・通学に便利な立地となっている。道路は西名阪自動車道・法隆寺ICから、大阪市内まで約30分、関西国際空港まで約1時間30分と交通の便に恵まれている。

町の歴史は古く、約1万5千年前の旧石器時代の人々の生活の痕跡が見られ、縄文時代以降の古墳など数多くの遺構も残されている。近世以降は大和川の水運の発達とともに町が繁栄し、明治期

以降は果樹栽培とその商品化や灌漑水路網の実現など、奈良県下で最も進んだ農業が営まれた。大正期に始まり100年以上続くブドウ栽培は現在にも受け継がれている。

#### 2. 産業構造

従業地による就業者人口（15歳以上）の産業別割合を見ると、第1次産業が1.4%、第2次産業が23.3%、第3次産業が75.2% となっており、奈良県全体（順に2.4%、22.1%、75.5%）とほぼ同じ割合である（総務省「国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計」（2020年））。民営事業所数は、424か所（県内22位）で従業者数は3,987人（同21位）となっている。（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査（2021年）」）。業種別の事業者数では順に卸売・小売業21.7%、医療・福祉業13.3%、製造業10.9%、従業者数は卸売・小売業23.2%、製造業18.0%、医療・福祉業14.3%となっている。（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査速報集計」（2021年））。



#### 3. 人口構造

町の総人口は1997年の20,548人をピークに減少が続いている。年齢3区分別では、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）は一貫して減少傾向である一方、老人人口（65歳以

上)は同年以降も増加が続いている(総務省「住民基本台帳」)。

年齢階級別人口移動を見ると、子育て世代や若年層(20歳以上39歳未満)の転出に伴う人口減少が顕著である(総務省「国勢調査移動人口の男女・年齢等集計」(2020年))。町の高齢化率は39.9%と奈良県平均の32.4%を上回っている。(奈良県「年齢別推計人口」(2022年10月))

## II 「観光資源」を活かしたまちづくり

### 1. 河合町役場庭園「旧豆山荘」

河合町役場の庭園は、大正末期に近鉄田原本線の前身である大和鉄道の創業者森本千吉氏により、馬見丘陵の大自然を取り入れて造られた広大な庭園が始まりで、庭園内には「豆山荘」(豆山とは馬見丘陵一帯を指す通称)と呼ばれる邸宅も建設されていた。

森本氏の亡き後、地元の財界人吉川京松氏が譲り受け、維持・保存されていたが、1948年に役場を豆山荘に移転する計画が持ち上がるとき川氏は快諾し、旧河合村(現在の河合町)に譲渡された。

1971年河合町の発足と同時に庭園内に新庁舎の建設が開始されたが、旧豆山荘の建物や庭園の一部が残っており、町民や観光客が自由に散策できる憩いの場となっている。



河合町役場庭園

### 2. 大阪都市圏のベッドタウンとして成長

河合町は、1960年代以降、西大和ニュータウンの開発が始まり、大規模な宅地が造成されたことで大阪都市圏のベッドタウンとして発展し、急激に人口が増加した。また、道路、公園等の公共

施設の整備や事業用地の確保なども迅速に進められたことで、快適な住環境が形成された。しかしながら、バブル経済の崩壊に伴い、当初計画された事業が縮小・見直しされる中、先行取得した事業用地の利用・売却が進まず、用地取得に係る借入金などにより、厳しい財政状況が続いていた。



大阪圏のベッドタウンとして開発された西大和ニュータウン

こうした中、これまで河合町議会や県議会で議員を務めた森川喜之氏が2023年5月、町長に就任した。森川町長は、教育や子育て支援、医療・福祉の充実により人口の増加を図るとともに、町の歴史遺産や豊かな自然環境などの観光資源を活かしたまちづくりを進めるため、2024年度から役場の組織に「(仮称)観光課」を新設することで、町の魅力向上や観光促進を目指している。

#### 【観光課の新たな役割について】(想定)

- 馬見丘陵公園や史跡を巡る観光ルート作り
- 観光案内板の設置・更新
- 観光ルート上のトイレ・休憩所などの整備
- 観光資源・文化財の掘り起こし
- シティプロモーション等

### 3. 観光資源を活かしたまちづくり

同町には、五穀豊穣と厄除けを祈る奇祭「砂かけ祭り」で有名な「廣瀬大社」をはじめ、「大塚山古墳」や「ナガレ山古墳」など国指定史跡4件11基を含む60基もの古墳が点在するなど、数多くの歴史遺産が存在する。

地域の文化や歴史の魅力を町内外に広く周知するため、町制50周年を迎えた2021年から、町内の古墳・史跡を巡って寺社が授与する御朱印のように御墳印を集める「御墳印帖プロジェクト」が

始動した。集めた御墳印を貼付する御墳印帖を作成したところ、歴史愛好家を中心に徐々に人気が高まり、全国各地から御墳印を求めて観光客が集まるようになった。

町では、町内の古墳や史跡など貴重な歴史・文化遺産や豊かな自然環境を誇る「馬見丘陵公園」などの観光資源を観光課が中心となって、町内外にアピールしていきたいと考えている。



国指定史跡（左上）「大塚山古墳」（右上）「ナガレ山古墳」  
(下) 廣瀬大社で毎年2月11日に行われる奇祭「砂かけ祭り」



県内でも有数の広大な「馬見丘陵公園」

### III 地域連携への取り組みについて

#### 1. 地域連携による新たな魅力の結集

同町では、少子高齢化に加え、都市圏への若年層の転出も多く見られることから、人口減少や空き家の増加などによる賑わいの低下が危惧されている。

これまで北葛城郡4町（上牧・王寺・広陵・河合町）は概ね共通の生活、経済、文化圏を形成し、

各町の課題においても似通っているという特徴を持ちながら、地域の発展に関する様々な取り組みを各町それぞれが独自で行ってきたが、発信力の弱さや知名度の低さから大きな成果を得ることができなかった。

そこで北葛城郡4町が連携し、域内の魅力と存在を周知することで地域ブランドの定着化を図り、大阪都市圏からの移住促進に取り組む「すむ・奈良・ほっかつ！プロジェクト」の推進協議会が2016年に設立された。

#### 2. すむ・奈良・ほっかつ！プロジェクト

北葛城郡4町は商業・医療・教育文化施設などが充実し、鉄道駅や高速道路などの交通網が整備されるとともに、県内有数の規模を誇る「馬見丘陵公園」に象徴される緑豊かで美しい環境を兼ね備えている。これらの住環境が充実した「ほっかつ」の魅力を4町が連携してPRすることには、スケールメリットの享受や地域の魅力・課題解決力の向上など、域外からの移住者を呼び込むまでの様々な効果が認められている。



北葛城郡4町（上牧・王寺・広陵・河合町）が共同で取り組む「ほっかつ御墳印帖プロジェクト」のパンフレット

さらに、観光分野でも前述の「御墳印プロジェクト」が、2023年4月に「ほっかつ御墳印帖プロジェクト」として4町に拡大された。河合町15か所、王寺町3か所、広陵町3か所、上牧町2か所など各町で御墳印所が用意されるなど、4町が連携して「ほっかつ」の魅力を発信し、観光客誘致に取り組んでいる。

## IV 産業振興に向けての取り組みについて

### 1. 産学官連携への取り組みについて

同町は、地域経済の発展や人材育成等を目的に大学や民間企業との連携にも積極的である。大学や民間企業が有する人的・物的資源等を有効活用し、行政運営に活かすことで、産業振興や地域の活性化など、住民サービスの向上に取り組んでいる。2016年には、和歌山県すさみ町と「災害時相互応援協定」を結び、その後、様々な分野で協力していくため、2024年2月には包括的連携協定を締結した。

すさみ町は和歌山県南部の太平洋に面した町でイノシシと豚を交配させた「イノブタ」の誕生した地であり、年2回河合町で開催される産直市では、すさみ町のイノブタ肉や海産物などの販売が人気を集めている。2014年からは河合町の小中学生を対象に、夏休みの期間中にすさみ町で海水浴やカヤック体験、水族館見学などの課外授業が実施されており、交流の輪が広がっている。

#### 【河合町の包括的連携協定先】

##### 【自治体】

###### ●和歌山県すさみ町

- ・産直市での特産品の販売や小中学生を対象とした課外授業など住民交流、災害時の物資供給等

##### 【大学】

###### ●畿央大学

- ・河合町特産の大和の黒豆「KAWAI BLACK」を活用した共同商品開発等

###### ●大和大学白鳳短期大学部

- ・保健医療分野の知見を活かした、子育て支援、介護予防、健康増進などに関する事業の実施等

##### 【民間企業】

###### ●金融機関

- ・公有不動産の利活用に資する事業等

###### ●郵便事業会社

- ・災害時における相互協力に関すること等

###### ●物流企業

- ・地域産品の流通・販売支援に関すること等

### 2. 農業×商業×観光業の一体化による産業振興

毎週日曜日に町内で開催される朝市「まほろば

夢市」は、地元産の新鮮な野菜や果物を求めて町内外から多くの人が訪れる。朝市に出荷される農産物は公立学校の学校給食にも提供されるなど「地産地消」の取り組みが進められている。

また、同町産のイチゴやブドウを使用したケーキやデザート等が地元のスイーツ店やカフェで販売されるほか、ふるさと納税の返礼品としても活用されている。今後さらなる特産品の充実を図るため、大学等と連携し、「黒豆」を活用した商品開発等を進めている。

このように、農業・商業・観光を一体化し、産業振興に取り組むことで、町の魅力の向上や地域活性化につなげる相乗効果が期待されている。



(左) 河合町の特産 大和の黒豆「KAWAI BLACK」  
(右) 農産物直売所「まほろば夢市」

森川町長は「町の財政を早期に健全化するため、観光振興や企業誘致に積極的に取り組んでいく」と語る。周辺地域から企業や移住者を呼び込むため、主要道路に面した土地の区画整理や規制の緩和、空き家対策などを進めることで経済活動の活性化のための環境整備に取り組んでいる。併せて、学校給食の無償化や老朽化した学校、公民館、体育館など公共施設の整備等にも優先順位を付加し、取り組むことで、住民にとっても魅力あるまちづくりを目指している。

企業誘致やインフラ整備など町単独で実施するのが困難な施策については、自治体や大学、民間企業などそれぞれの機関が有する人的・物的資源を活用し、広域連携の効果として課題解決を図っていくことが期待される。（井上主税、秋山利隆）